

取組の目的・概要、効果・特徴

取組全体の目的・概要: 東日本大震災から13年の富岡町を語り伝えることで、共に考える人を増やし、新たなコミュニティを形成し、町民の生きがいつくりを目指す事業を実施する。避難先の郡山市では、コミュニティの形成と生きがいつくりにつながる企画。富岡町では、町内の伝承施設と連携した語り人活動の拡充と被災地の今を発信する事業を展開する。

取組の効果・特徴:

- ①【町なかの語り人アワー】の実施
- ②「あなたもカタリベ」活動の企画運営
- ③町外居住町民の交流維持活動
- ④富岡町の情報発信

取組内容

【町なかの語り人アワー】の実施

- 実施期間 月1回(毎月11日)
- 場所: 富岡町・町内(とみおかアーカイブ・ミュージアム等)
- 内容: 富岡町内の伝承施設「とみおかアーカイブ・ミュージアム」において、富岡町の語り人が口演を行う(月1回)



【「あなたもカタリベ」活動の企画運営】

- 実施期間 年4回
- 場所: 富岡町
- 内容: 語り人や口演という形ではなく、町内で自身の体験を語る場として実施。自身の体験を語る事で防災意識醸成と生きがいつくり活動につながる。参加者の希望に併せて、他町民や被災地外の町民へかたる語り人アワーへ参加。

【町外居住町民の交流維持活動】

- 企画講座 年4回
- 語り人口演の実施 年2回
- 場所: 郡山市内
- 内容: 郡山市へ避難した町民の交流の機会場所が減少。町の情報共有をすることで孤立を防ぎ心の安定を得る。避難先住民との相互理解を深め新たなコミュニティができる。



【富岡町の情報発信】

- 通信 発行回数 年6回
- 桜風舎の展示 通年
- 内容: 県内外における避難生活を送る住民に、日々変わりゆくふさと「富岡」の様子を発信。ふるさととの繋がりを感ずることで、孤独感を緩和。避難者だけではなく、県内外へむけた広報紙による発信を行う事で、富岡そして福島の未来を共に考える人を増やす。



次年度以降の展開

- 1 語り人活動の拡充と発展を目指す。
 - ①富岡町の復興事業の中における「伝承活動」の位置づけを確立する。語り人町民の拡大(町内外の町民すべてを対象とする)。町内の伝承施設との連携
 - ②富岡で働く人、学ぶ人、暮らす人に、町を「見る」「聞く」「知る」の町内探訪や交流会を開催する。
 - ③YouTubeで、富岡町の震災後の課題やこれからの展望を、「わかりやすく」「インパクト強く」発信する。
- 2 避難先の町民の「心のホットスポット」の場所を提供する。郡山の交流拠点の企画運営を継続充実させる。「ふるさと富岡」の情報を発信し続ける。